アツモリソウ

浅間山の南に広がる高原のまち、御代田。標高700メートルから2,500メートルに位置し、春夏秋冬、美しい季節の移ろいを見せながら、浅間に抱かれるように存在しています。浅間山麓の広く豊かな自然は、私たちの暮らしや産業の礎となっています。北陸新幹線や、上信越自動車道により首都圏とのアクセスもよく、利便性と自然環境の両面においてバランスのとれた、暮らしやすい町です。

湯川

町南部を流れ、美しい渓谷を形づくっている。

露切峡

湯川随一の景勝地。渓流釣りの人気スポット。

濁川

血の池と呼ばれる源泉から流れる水は、数十メートル下流で濁川特有の茶色に変わる。

アサマシジミ

本州の関東・中部地方に分布。御代田町天然記念物。準絶滅危惧種。

雄大な浅間の自然に抱かれて

御代田町誕生60周年 将来に向けた 御代田の「底力」を

御代田町長

茂木(もてき) 祐司(ゆうじ)

昭和31年9月に「小沼」「御代田」「伍賀」の3村が合併して誕生した御代田町は、本年9月、町制施行60周年を迎えます。今日までの道程を振り返るとき、幾多の困難と曲折がありました。先人の皆さまの努力と英知に敬意を表します。

御代田町は、冷涼な気候を活用した高原野菜の栽培、精密機械工業、食品製造業などの産業を基盤として発展してきています。合併当初8千人程だった人口は約1万5千人へと増加し、平成27年度時点では生産年齢人口が長野県内77市町村のなかで3位、人口増化率が5位と少子・超高齢社会のなか、人口が増え若い世代が多く暮らす町となっています。

今後も、住民の皆さまと行政が協働して次世代へと繋がる架け橋となり、先人の皆さまが築き上げ守ってきた歴史と文化、そして壮大で豊かな自然を継承し「住みよい」そして「より魅力ある御代田町」づくりに全力で取り組んでまいります。

このたび、町制施行60周年を記念し、これまでの当町の取り組みや歩み、現在の姿を紹介する町勢要覧を発行いたしました。ご覧いただきまして、私たちのまち御代田町への一層のご理解を深めていただければ幸いです。

町花／ヤマユリ

町木／いちい

町章

御代田町の みよた を表し町が (力)づよく発展することを願うと共に (鳥)が未来へ飛びたたんとする様を図案化したもので昭和42年8月25日に制定。

MIYOTA

シンボルマーク

町の花であり、御代田町の自然を表現するヤマユリをモチーフに、花の下に浅間山の稜線と煙を表現する柔らかい曲線で構成しています。花のおしべの部分の赤は、町の農業、商・工業、観光と自然・人・ふれあいを表現しています。

町名由来

明治8年「小田井」「前田原」「池田新田」「児玉新田」の4村が合併。“維新の御代”を慶賀し『御代』、そして4村にある『田』を取り『御代田』村となる。昭和31年に「小沼」「御代田」「伍賀」の3村が合併。協議会により選定した結果、『御代田』町となる。

町民憲章

わたしたちは、雄大な浅間山にいだかれた、水清く、緑豊かな高原の町、御代田の町民です。わたしたちは、この恵まれた環境の中で、先人の心を受けつぎ、町民としての誇りと責任をもって、人間性豊かな、明るい活力のある町をつくるために、ここに御代田町民憲章を定めます。

一、緑あふれる自然を大切にし、美しい環境の町をつくります。
一、教養を高め、かおり高い文化の町をつくります。
一、働くことに、誇りと喜びをもち、伸びゆく産業の町をつくります。
一、思いやりの輪をひろげ、心のふれあう、あたたかな町をつくります。
一、からだをきたえ、生き生きとした、明るい町をつくります。

（昭和62年9月25日制定）

ふるさと大橋